

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年1月29日（木）16：45～17：00

場所：内閣府

【冒頭発言】

首席交渉官会合3日目の28日（現地時間）は、午前9時から午後7時過ぎまで、ほとんどの時間をリーガル（法的・制度的事項）に充てて議論を行った模様。今回の会合でどういう具体的な論点について議論されたかは対外的に明らかにしないという制約がある中で、法的・制度的事項における論点を、あくまで一般論として紹介すると、内閣官房の資料にも書かれているが、紛争処理の手続き。それから、北京の閣僚報告にも書かれているが、透明性の確保、もう1つは腐敗防止である。北京の報告書における評価は「作業中」。5段階評価でいう「合意」、「合意近し」、「進展」、「作業中」、「難しい」のうち、下から2番目である。

リーガルについては、昨年7月のオタワ会合から毎回、相当の時間を割いて議論しており、論点の数は随分減ってきている。ただ、それぞれの国の経済的な利害に直接関係するというよりは、法技術的なテーマが多いので、妥協するとか、他との取引でというようにしにくく、難しいということである。昨日いくつか片付いた細かい問題もあったが、まだ論点が残っている状況。でも、ワシントンと今回を合わせると「進展」と評価できると思う。リーガルは作業部会（WG）も並行して26日から開かれており、最終日までみっちり行う予定である。リーガルはいつもそうだが、CNからの指示を受け、法律の専門家が揃っているWGで詰めの議論を行うというやり方なので、ニューヨーク（NYC）にいる間、昨日CNから出された多くの指示をWGで整理することを期待したい。

この日の午後の残り時間は原産地規則（ROO）を扱った。原産地規則は、何度も申し上げているが、基本的なルールを決めるテキストと、個別の品目ごとに原産地の基準を1品1品、ライン・バイ・ラインで決めるPSRという2本立てである。北京の報告書では、「相当数の品目について実質的に進展させた」と書かれているが、昨日のCN会合ではテキストの残された課題について議論を行った。残っている論点のうち半分ぐらいはMA交渉次第というもので、それ以外のものを主として扱った模様。これもだいたい収束に向かっており、もう少しというところである。PSRはまだ相当のライン数が残っている。これはCNというよりWGでやるしかないので、精力的な調整が進められているが、現在残っているものにはMA交渉でセンシティブな品目が多く、MAが終わらないと原産地の議論に入れられないというものばかりである。まさに原産地はMA交渉と表裏一体なので、原産地の作業が最後まで残るのはFTA交渉の宿命である。この日は最後に繊維の議論も行う予定だったが時間切れになってしまい、29日は繊維から議論を始めることになる。

今回は少数国会合に午後の時間を充てることになっているが、28日はリーガルの時間がかかり延びてしまい、午後も早く始めようということになったので、少数国会合の時間はあまり取れず、バイの協議を行う必要のある国があれば2国間でどうぞという感じで終始し、我が国は参加しなかった。鶴岡首席は28日、バイ

の協議は行っていない。

分野別の作業部会（WG）については、28日に行ったのは知的財産（23日から実施中）、国有企業、投資、リーガル、原産地規則である。これらに加え、金融サービスと環境についても、交渉官が集まって調整がなされた模様。環境はCNに上げる論点の確認等を行っているのではないか。

大江代理は28日に到着し、午後から2か国のCNとMAバイ協議を行った。

【質疑応答】

（記者）

金融サービスにはかなり細かい論点があるのか。

（澁谷審議官）

何点か残っている。

（記者）

大江代理が行ったバイ協議の相手国2か国の、現時点での交渉進捗状況如何。

（澁谷審議官）

「あまり進捗していない」国と、「そこそこ進展している」国である。

（記者）

「あまり進捗していない」相手国とは、今回NYCにいる間に大江代理が何回か協議する可能性があるのか。

（澁谷審議官）

大江代理が2対2で協議を行い、その後はお互いに持ち帰った宿題を現地で片づけていくことになるのではないか。

（記者）

米国の豚肉関係団体が日本への姿勢を軟化させているとの現地報道があり、日米関税協議が妥結に向けて動く可能性も垣間見えるが、その辺の見通し如何。

（澁谷審議官）

大江代理は来週の2月2日（現地時間）から、米国のカトラ一次席代表代行やヴェッター首席農業交渉官と協議を行うので、そこで豚肉なども含めて議論を行うことになると思う。フロマン代表も上下両院の公聴会での証言において、日米の農産品交渉はまだフィニッシュしていないと明確に述べているので、まだ協議は継続しているということである。

（記者）

大江代理はすべての国とバイ協議を行うわけではないのか。

（澁谷審議官）

大江代理と相手国のCN等とで何度か協議を行い、あとはテクニカルなレベルでの調整、という国々とは、交渉官レベルでの協議ということになる。

（以上）